



21.9.25 伝道学

「時空を超越した人々」

使 1:8

2022 第 123 RUTC 答え 24

序-どこにいるのか? 本

1:1
1:3
1:8

1. なぜただ(使 1:1)

- 1) 3:4-5 → 3:15
- 2) 6:4-5 → 6:14
- 3) 3:1-10 → 出 3:18
- 4) イザ 6:1-13 → イザ 7:14, 60:1-22
- 5) 使 1:6-7 → 使 1:3, 8

2. どのように?(使 1:3)

唯一性見える時まで

- 1) 創 39:2, 6
- 2) 出 3:18-20
- 3) Iサム 3:19, Iサム 16:13
- 4) II列 2:9-11
- 5) ダニ 6:10, 20, 22
- 6) 使 2:1-3

3. いつ(使 1:8)

再創造される時まで

- 1) 創 45:1-5
- 2) 出 5:1-12:46
- 3) Iサム 7:1-15
- 4) Iサム 17:1-47
- 5) II列 6:8-23
- 6) ダニ 3:8-24, 6:10-22
- 7) 使 12:1-25

残りの者
巡礼者
征服者

使 1:8

しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。

要約

初代教会の伝道者は、時空を超越した人々だった。伝道者は「その中にいるべき」ということだ。

□序論_どこにいるかが重要だ。神様がみなさんを伝道するシステムに入れたのだ。すべての生活が伝道だ。私たちがこの中にあることが重要で、方法が重要なのではない。

使 1:1
使 1:3
使 1:8

□本論_この中に(使 1:1、3、8 の中に)いれば良い。

1. なぜただなのか(使 1:1)

- 1) 創 3:4-5 だまされること → 創 3:15 に入ること
 - 2) 創 6:4-5 ネフィリム → 創 6:14 箱舟の中に入ること
 - 3) 出 3:1-10 完全奴隷 → 出 3:18 解放の中に入ること
 - 4) イザ 6:1-13 完全滅亡 → イザ 7:14, 60:1-22 インマヌエル、光の子どもとして呼ばれたこと
 - 5) 使 1:6-7 「あなたがたは知らなくてもよい」 → 使 1:3, 8 神の国とただ聖霊によって
- △問題解決しようと思わずに、こちらに入れば良い。そこでみな終わる。

2. どのようににただすべきなのか(使 1:3)

唯一性が見える時まで

- 1) 創 39:2, 6 奴隷として行ってこれ(唯一性)なる時までしたこと
- 2) 出 3:18-20 神様がくださった重要な契約が見える時まで
- 3) Iサム 3:19 唯一性に対することを見たこと
Iサム 16:13 唯一性の契約を握ったその日以降
- 4) II列 2:9-11 聖霊の二つの分け前の力が臨むその時間まで

- 5) ダニ 6:10 毎日、20 日も、22 日もどんな事件でも唯一性を見たこと
- 6) 使 2:1-3 マルコの屋上の間に唯一性の答えが臨んだこと

3. いつしななければならないのか(使 1:8)

再創造される時まで

- 1) 創 45:1-5 総理になったこの時から再創造のみわざが始まったこと
- 2) 出 5:1-12:46 10 奇跡でエジプトの文化をひっくり返したこと
- 3) I サム 7:1-15 ミツパ運動が起きて再び戦争が起きなかったこと
I サム 17:1-47 ゴリヤテを倒してしまったこと
- 4) II 列 6:8-23 ドタンの町でアラムの国と戦わないで崩したこと
- 5) ダニ 3:8-24、6:10-22 死にも再創造の働きが起きたこと
- 6) 使 12:1-25 アンテオケ教会ができるやいなや、より大きい迫害が起きて祈り→大きい分岐点を作ったこと

△知って信じさえすればよい。私は目を開けば「神様はまた、どんな祝福を準備されているのか」と祈る。問題がくる。「神様はどんな祝福を備えておられるのか」私の力で絶対にできないことがある。「神様はどんな大きい計画を準備されたのだろうか」本論 1-3 番が見える時まで行けばよい。

□結論_ 2022 第 1・2・3 RUTC 答え 24

残りの者、巡礼者、暗やみを砕く征服者 24 だ。

教会の信徒がこのようにならないといけない。これが私たちの来年の祈りだ。神様はそのようにされる。

<全文書き起こし翻訳>

初代教会の伝道者は時空を超越した人々でした。それはいったい何の話でしょうか。それがたんなる単語になれば何も効果もありません。昔にそのハンシン教会というのがありました。今でもあるでしょう。そこに、そのイ・ジュンピョ牧師という方がおられたが、その方が私を復興会に招かれました。早天、昼、夜このようにずっとしました。その雰囲気が見たところ、教会信徒がとても恵みをたくさん受けていました。ところで、終わってイ・ジュンピョ牧師が私に食事の接待をしてくださりました。食事のとき、私に話しました。「ああ、まさにこれですね。みなそのとおりです」と。「そのようにしなければならない」ということです。ところで、重要な話をしました。「しかし、私はできない」ということです。そのように率直に話す人は初めて見ました。「私はできない」ということです。それゆえ、私が「なぜですか」そう言いました。「今、柳牧師を見ると、伝道できるシステムがきちんと取りそろえている」ということです。自分が感じるのにそうだということでした。柳牧師は伝道できるシステムがきちんと取りそろった人のようだということです。自分が今そのようにしようとしても、とても遅いのではないかと、ということ。何、私よりはるかに先輩ですから、私がいろいろ説明をしましたが、しかし、そのように言う人は珍しいです。それはとても立派な人々ができることで、誰でもそうできません。何を言っているかということ、時空を超越する人々は、時空を超越するのではなく、その中にいなければならないのです。

□序論_どこにいるのか

伝道者は、どこにいるのかがとても重要です。私はその方の話を、いつも思い出します。なぜなら、みなさん見るたびに。神様がみなさんをぱっと伝道するシステムの中に入れられたのです。そうでしょう。ですから、何、みなさんが、これが、神様の伝道システムの中にぴったり縛られて私たちは行くしかない、このような祝福を受けました、事実。あ、これは誰が強制的に作ったことではないでしょう。そのままこのように私たちが集まりますので、伝道システムの中に入ったのです、これが今。その私たちは、今、すべての生活がみな伝道で、私たちは。どれくらい感謝なことでしょうか。

多くの牧師が、間違いだ、悪い、その話ではなく、そのシステムの中に完全に入ってくるが大変です。かと言って、間違っているとか、何か救われていないとか、そんなことはないでしょう。その話をイ・ジュンピョ牧師が私にしたのです。そして、もう終わりに別れながら笑いながらです。「柳牧師!本当にうらやましい。私もちょっと若かったら良かったよ」こう言いました。

この今、伝道者はどこにいるかが、とても重要です。私たちは時空超越このように言うから、とても答えを度々受けなければならないかと、このように理解しているのですが、それもありません。

使 1:1、使 1:3、使 1:8

私たちがこの中に(使 1:1、3、8)いるのです。

それで良いでしょう。何か。あ、イエス様がこれのためにオリブ山に呼ばれたのではないのでしょうか。ですから、この中にいるのか、いないのかが重要で、私たちがなにか方法が重要なのではないということ。

□本論

さあ、するとなぜ、ただだとおっしゃったのでしょうか。これ(使 1:1)のためです。「テオピロよ。私は前の書で」こ

う言いました。

すると、私たちはどのように、ただをすべきでしょうか。それがこれ(使 1:3)ではないでしょうか。神の国。おっしゃったのではないのでしょうか。

すると、いつしなればなりませんか。それがこれ(使 1:8)ではないでしょうか。聖霊の満たし。このようにイエス様が話をされましたから。私たちはこの中にいれば良いのです。

1. なぜ、ただ(使 1:1)

1) 創 3:4-5 → 創 3:15

これが小さい話のように見えるのですが、創世記 3 章 4 節 5 節から、完全にこっちに(創 3:15)入るのです。ここに(創 3:4-5)いれば、だまされるから。

2) 創 6:4-5 → 創 6:14

創世記 6 章 4 節 5 節。ネフィリムの中に陥っていて、完全に箱舟の中に入ることでしょう。

3) 出 3:1-10 → 出 3:18

出エジプト記 3 章 1 節から 10 節。完全に奴隷であって、完全に解放側になるこっちに(出 3:18)入るのです。どれくらい驚くことでしょうか。

4) イザ 6:1-13 → イザ 7:14、60:1-22

完全にこのような滅びの中にいるしかない者を、こっちに(イザ 7:14、60:1-22)引き出すのです。それゆえ、ただです。いや、完全に何、さらに滅亡受けると言われました。ですから、インマヌエルで、それで光の子どもと呼ばれたのです。この中に入れば良いです。何か問題を解決しようとせずに、それ持って入れれば良いのです。そうすれば、そこでみな終わるのです。今、私たちの青年たち、多くの何かいろいろなことを心配するのですが、する必要がありません。こっちに入って行きましょう。

5) 使 1:6-7 → 使 1:1、3、8

さあ、いくらしてもだめですか。それでイエス様が「あなたがたは知らなくてもよいのです」このとき、あなたがたが知らなくてもよい、この話は「そのような価値がない」ではないということです。「それは、あなたたちが知ってもできないことだ」そのことです。それゆえ、このように言われました。「神の国とただ聖霊によって」

2. どのように(使 1:3)

唯一性が見える時まで

するとどのようにしなければなりませんか。唯一性が見える時まで。そのようにするのです。このことが道です。必ず出てきます。唯一性見える時までです。それが 1 章 3 節です。さあ、それなら、歴史を見ましょう。

1) 創 39:2、6

奴隷として行ってこれ(創 39:2、6)がなる時まで、そのままします。これがなる時まで祈るのです。これが(創 39:2、6)ポティファルの家に神の国が臨んだでしょう。他のことではないでしょう。

2) 出 3:18-20

この神様が重要な契約をくださる、それが見える時まで。これまで、そのまま行くのです。

3) I サム 3:19、I サム 16:13

いよいよ神様の大きい契約を受けた後に「サムエルのことばを一つも地に落とされなかった」というこの話は、唯一性に対することを見るのです。ダビデに「この日以来」そう言われました。为什么呢。唯一性を見た、その日以来。その話です。そうでしょう。これが重要なのです。この日以来、この話は、何かの日は毎日ありますが、唯一性の契約を握ったその日以来。唯一性が見える時までこれを、心配する必要はありません。

4) II 列 2:9-11

そして、II 列王記 2 章 9 節 10 節 11 節になんですか。聖霊の二つの分け前が臨むその時間まで。唯一性が見える時まで。

5) ダニ 6:10、20、22

ダニエル 6 章 10 節。毎日。いつも(ダニ 6:20)、どんな事件でも(ダニ 6:22)。このように見るのです。ですから、いつも祈っていたのですが、このダニエルがこれは(ダニ 6:10)定刻で祈ったことですね。これは(ダニ 6:20)毎日するのです。死刑場で、死の現場でもみわざが起きました。これを見るのです。

6) 使 2:1-3

いよいよ使徒 2 章 1 節から 3 節を見てください。マルコの屋上の間に唯一性の答えが臨むのです。

3. いつ(使 1:8)

再創造される時まで

いつまででしょうか。これも(本論 2)いつまでこのようにしなければなりません。簡単です。再創造される時まで。これが出てくる時まですれば良いのです。さあ、いよいよ出てきました。

1) 創 45:1-5

創世記 45 章 1 節から 5 節。総理になって、事實は、世界の総理になったのです。事實は、パロ王が話しました。「私よりあなたがさらに高い」と話しました。そうでしょう。「私があなたにまさっていることは一つもない、一つしかない」と言いました。何でしょう。「王座にいることしかない」こう言いました。そのように言いました。「すべてのことをあなたの思いどおりにしなさい」こう言いました。王になったのです、事實は。世界の王になりました。再創造の働きがこの時から始まります。

2) 出 5:1-12:46

モーセを見てください。いよいよ十の奇跡で、エジプトの文化をひっくり返します。再創造の働きが起き始めたのです。

3) I サム 7:1-15

いよいよサムエルに、ミツパ運動が起きます。「再び戦争がなかった」再創造の働きが起きたのです。

4) II 列 6:8-23

いよいよ見てください。ドタンの町で起きたことです。なんでしょう。アラムの国と戦わずに打ち砕いてしまったのです。

5) ダニ 3:8-24

さあ、バビロンで起きたことです。ダニエル 3 章 8 節から 24 節、6 章 10 節から 22 節。死にも。再創造の働きが起きてしまうのです。

6) 使 12:1-25

いよいよ私たちの初代教会にどんなことが広がりましたか。分岐点が出てきました。使徒 12 章 1 節から 25 節を見てください。アンテオケ教会ができるやいなや起きた大きい患難に、より大きいこのような迫害が起きたのです。このとき、この人々は集まって祈ったのです。大きい分岐点を作り出すのです。

-I サム 17:1-47

ここに(本論 3 - 3、4の間)ひとつ、より加えるならば、I サムエル 17 章 1 節から 47 節なんでしょう。ゴリヤテを倒してしまうのです。このような再創造の働きが起きたのです。何、ある面では、みなさんはこれは知って信じるだけすればよいのです。作ることもありません。私はいまは毎日、目を開けば、また神様がどんな祝福を準備されているのだろうか。本当に期待します。問題がきます。神様はどんな祝福を備えておられるのだろうか。私の力で絶対にできないことがあります。神様はどんな大きい計画を準備されたのだろうか。このように(本論 1, 2, 3)見える時まで行けば良いのです。みなさんは、この時代の伝道者であることが確実です。

□結論

残りの者、巡礼者、征服者

もう一度、みなさんは記憶しなければなりません。残りの者。来年に深く入っていく主題です。巡礼者。暗やみを打ち砕く征服者。

2022 第 1・2・3 RUTC 答え 24

今日、書いて送るでしょう。来年の主題です。今日、私が書道で書いておきました、送るでしょう。今年は現場ですが、答えの現場でなく来年には 24 です。このことがたんなる 24 ではなくてこの単語(残りの者、巡礼者、征服者) 24 ということです。いまは答えを受ける時刻表。教会信徒が受けなければなりません、もう。前までは教会信徒がみなさんのメッセージについてきました。そうですね。当然、よくしたことです。しかし、いまは教会信徒が受けなければなりません。教会信徒がこのように(残りの者、巡礼者、征服者)ならなければなりません。これが私たちの来年の祈りです。神様はそのようにされるはず。祈ります。

祈り

神様に感謝します。伝道者と呼ばれた神様に栄光を帰します。逃してしまった残りの者、巡礼者、征服者の答えが回復しますように。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン

直筆

2인칭
전보되어 있음
2의 1, 2, 3 RUTL 유상해 현장 (36)
+ 시공으로 초당한 사업부 T
(행 1:8)

1. 왜 오곡인가?

2. 어떻게 인격에게 하는가?

3. 언제 인격에게 하는가?